

## 特別寄稿・私の能登半島地震体験

障害者支援施設  
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター  
職員・雲田 喜弘さん

地震当日、私は家族と家にいたのですが、最初の地震は揺れがなく、携帯の速報で知りました。

その後すぐに大きな揺れがあり、家の冷蔵庫や食器棚の中身が落ちていく様子をなぜか冷静に見ていました。揺れが落ち着いてすぐに家族に避難するように話をし、車で避難先の小学校に行きました。そこでは温泉の観光客も避難してきてグラウンドに千人ぐらいの避難者が集まっていました。みんなで携帯のYoutubeで速報を見ながらこの地震の情報を集めている感じでした。私の娘は音に過敏に反応するので、鳴り響く警報音に泣きながらもグラウンドで待機していたのを覚えています。しばらくして揺れも少なくなってきたこともあり、体育館に旅館宿泊者や高齢な地域避難者が、各教室に小さい家族がいる避難者の方が分かれて避難しており、車で避難所に来た方は車で避難して下さい、とアナウンスがあり、車で待機していました。

夜になると避難所に本部の設営がされ、運営陣に知り合いがいたので手伝えることはないかと聞くと、各旅館から毛布や布団を持って来た従業員さん達が配るのを手伝える人はお願いしますというので、教室や体育館に運ぶ手伝いをしたり、旅館の方が持って来たお菓子などを配ったりしました。また、すぐにトイレ問題が発生しました。避難所の想定利用者数の三倍の避難者が集まったこともあり、すぐに貯水分がなくなり、水が流れないのでグラウンドの端の方に穴を掘って仕切りをし、簡易トイレをしたりしていました。子供たちは、あまりトイレに行かないようにしていました。

避難したのが夕方だったこともあり、子供たちも「お腹が空いた」と言うので、自宅へ食べ物などを取りに行きました。地震で物が床に散乱しているなか、さっと食べられるものと飲み物だけを取りに行ったことを覚えています。その後は、車で過ごししながら、携帯の電波状態の悪さで繋がらなかった。珠洲に住んでいる義母と連絡が着き、建物の何かに挟まっているので避難できないということがわかり、義母の携帯の充電が夜中に切れたこともあり、その後の状況が分からず不安になることもありましたが、朝になり救助され、避難所にいることが分かりホッとしました。